

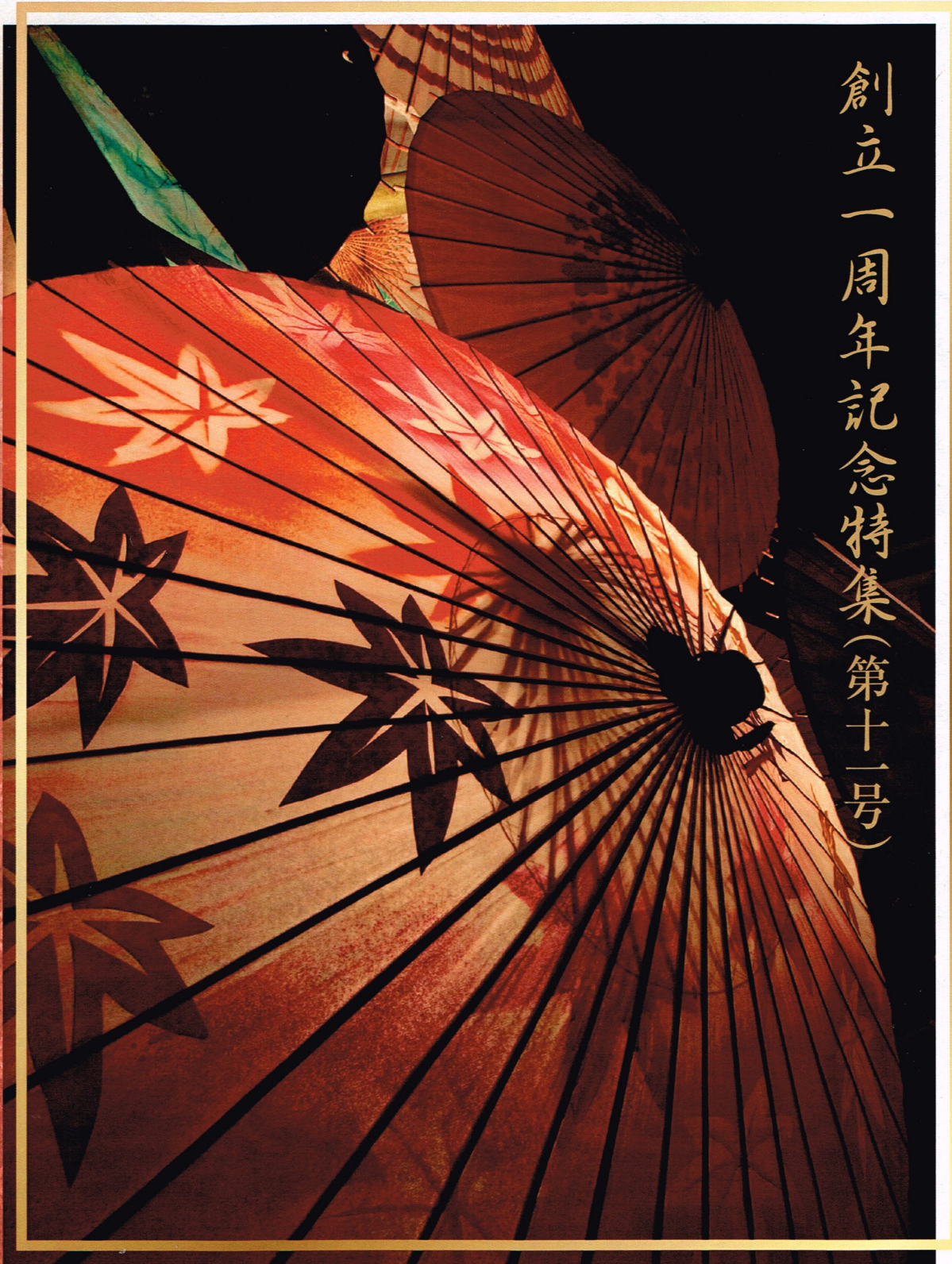


東京日野プロバスクラブ
創立平成22年9月16日

プロバスだより

— Positive Aging —

創立一周年記念特集(第十二号)



第11回 理事会

日 時：平成23年9月8日(木) 14:00~15:30
 場 所：東京飛火野ロータリークラブ事務所
 出席者：10名

第10回例会に備えて、具体的な運営に関する事を協議しました。

創立1周年 記念例会

日 時：平成23年9月15日(木) 12:30~14:00
 場 所：高幡不動尊 客殿2階
 出席者：24名 出席率83%(会員総数29名)

開 会 司会 例会委員長 奥 修兵

会長挨拶 会長 篠原昭雄

- ①アメリカの同時多発テロから10年目、東日本大震災から半年、今も世界的に紛争が起こり、自然災害も重なり、平和の大切さが認識させられています。その中で私たちが遅く生きていく備えが必要であると考えさせられます。
- ②創立1周年に当たり、例会と式典、祝賀会を行いますので、日頃の活動の一端をご覧頂きたいと思えます。

幹事報告 幹事 澤田研二

- ①105番目として誕生した日野PCが1周年を迎えました。
- ②関東中央地区交流会を11/中に行います。

委員会報告

例会委員会 委員長 奥 修兵

- ①次回例会は10月20日(木) 12:30~です。
- ②出欠確認は、10月17日夕刻までに、連絡。

情報委員会 委員長 林 良健

- ①「プロバスだより」第10号が、発行出来ました。
- ②「プロバスだより1周年記念特集号」を10月例会時に発行。
・原稿は会員全員提出下さい。

会員委員会 委員長 鷲尾昭夫

- ①会員手帳の件
・「会員手帳登録票」本日中に提出。
・11月例会時に会員手帳をお渡します。

研修委員会 委員長 小島康義

- ①ゴルフ部会は8月26日発足。次回は、12月16日(金)よみうりゴルフ倶楽部
- ②旅行部の件
・9月22日 集合時間厳守。

・第2回案内配布。 10月例会時回収。

地域奉仕委員会

委員長 山本英次

- ①日野市に貢献する。
・個人的に高齢者へ“気かけ”ていく。
- ②街頭募金活動や「正秋バンド」などチャリティー活動に協力する。
- ③施設への訪問活動を実施する。

創立1周年 記念式典

司会 澤田研二

開会の挨拶

東京日野PC会長 篠原昭雄



来賓の方々のご出席誠にありがとうございました。当クラブは、日野RC、飛火野RC、八王子PC、多摩PCのご協力で、昨年9月16日に創立致しました。最初は戸惑いもありましたが、目的である会員相互の親睦をはかり、各委員会は活発に活動充実し、多くの方々に支えられ1周年を迎えることが出来ました。誠にありがとうございました。

来賓のご紹介

東京日野PC副会長 菊池昭雄

全日本PC協議会

副会長 立川富美代様

東京日野RC

会長 藤林 良昭様

〃

前会長 井村 廣己様

〃

幹事 和田 達也様

〃

前幹事 小宮 延雄様

〃

谷井 正剛様

〃

大谷 明久様

東京飛火野RC

会長 渡邊 良勝様

〃

前会長 濱田 宣郎様

〃

幹事 小島 明様

〃

前幹事 大塚 洋晃様

〃

藤野 益夫様

東京八王子PC

会長 佐々木研吾様

〃

幹事 永井 昌平様

〃

山崎 修司様

東京多摩PC

会長 大澤 亘様

〃

前会長 鴻池 敬和様

〃

幹事 稲田 興様

〃

前幹事 神谷 真一様

高幡不動尊金剛寺

貫主 川澄 祐勝様



来賓祝辞

全日本P協議会 副会長 立川富美代

1周年おめでとうございます。

1年間の立派な活動に驚き、感動しております。

今年度のスローガンは

- ①プロバスを学び、プロバスを楽しみましょう。
- ②和やかなプロバスクラブにしましょう。
- ③活力のあるプロバスを目指しましょう。

このスローガンを掲げて、健康で仲良く、地域貢献出来る活発な活動出来るように仲間が増えることを祈念いたします。

東京日野RC 会長 藤林良昭

東京日野RC45周年記念事業として、東京飛火野RCと共同で、東京日野PCを立ち上げ、1周年を迎えましたこと、おめでとうございます。

PCの目的である、知識や経験を活かし、地域社会に奉仕して交流と親睦を深めて頂きたいと思えます。日野RCは、今後も応援していきます。

東京八王子PC 会長 佐々木研吾

八王子市、日野市は接続した一体の地域性があり、相互に交流発展していく意味のある西東京メガロポリスを形成しています。この秋には、交流の場を設けたいと思えます。今後ともよろしくお願ひ致します。

祝電・メッセージ披露

副幹事 佐藤郁夫

- ◇飛火野RC 祝電
- ◇全日本PC メッセージ
- ◇八王子PC メッセージ

記念講演

「いのちの限り」

高幡不動尊金剛寺貫主 川澄祐勝

- ①「高幡不動尊」のお客様への心くばり
 - ・お参りした方が「また来たい！」と思えるような対応を心掛けています。
 - ・お納経に来た方には、必ずお茶を接待。
- ②「まだ仕事 あるか楽しき 八十の春」
 - ・私は365日休みません。
 - ・使ってもらえるから元気でいられる！
 - ・大勢の方々にお話し出来ることは、若返りであり、生き甲斐です。
- ③「叱られる幸せ」
 - ・叱られても、受け止め方で、人生が決まってくる。
 - ・全てを前向きに受け止める。(私のモットー)
 - ・なぜ叱られたのかは、あとでわかる。
 - ・叱られるのは、叱るに値する人間だから
 - ・叱ってもらえる人間にならなくてはいけない。
- ④日野原重明先生のこと
 - ・若い時の病気でわかる人の痛み。
 - ・社会のために尽くす。
 - ・「新老人の会」を立ち上げて
 - 60歳未満＝サポート会員
 - 75歳未満＝ジュニア会員
 - 75歳以上＝シニア会員とし、「生きる」ことへの提言活動を実施。
 - モットーは「愛し、愛される」「新しいことに挑戦する」「じっと耐える」こと。

創立1周年 記念祝賀会

司会 澤田研二

挨拶

東京日野PC会長 篠原昭雄

皆様のお陰で、素晴らしい1周年記念式典を終了することが出来ました。ご協力ありがとうございました。今日のこの場を、お互いの交流の場として、活用し連携を深めていきたいと思ひます。

祝辞

東京飛火野RC会長 渡邊良勝

1周年記念おめでとうございます。この1年間豊富な知識・経験をお持ちの皆様方は、宝です。

この宝は、埋蔵金にするのではなく、活用されて、その宝の価値が出てきますので、宝を広く社会に還元して頂きたいと思ひます。

乾杯

東京多摩PC会長 大澤 亘

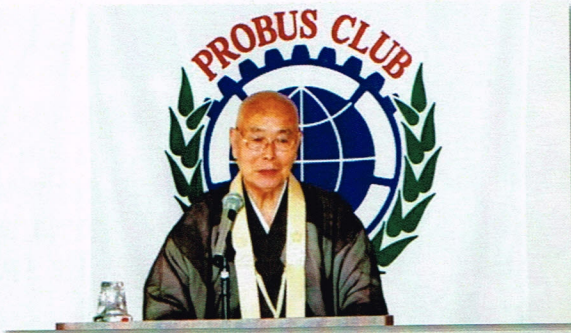
創立1周年おめでとうございます。お隣同士のPCとして大いに発展されることを期待しています。今後とも交流を通して、お互いに発展していきたいと思ひます。

祝宴

アトラクション 東京日野PC 安孫子秀子

東日本大震災復興祈願の意味を含めて、岩手県・宮城県・福島県の民謡をピックアップして演奏されました。

- ・外山節(岩手県)
- ・齊太郎節(宮城県)
- ・相馬盆唄(福島県)



⑤高幡不動尊のこと

- ・重要文化財の不動明王像修理のため、身代りの本尊として造立にかかる費用として3億円捻出のため、安易に寄付者を探していた自分を反省し多くの皆様へ声掛けして、浄財を得ました。(1口1万円、約2年間)

⑥命は時間である

- ・私達に残された時間、その時間を如何に生きるか?それで人生が決まる。
- ・残された時間を、タツプリ生きる
- ・お不動様は限られた人生をいかに有意義に生きるかを、教えてくれる。
- ・「その瞬間を最善に生きる！」



⑦心掛けていること

- ・1年中仕事を楽しくやる。
- ・その瞬間を最善にやる。
- ・人の為になることをやる。
- ・いくつになってもたえず学ぶ。
- ・新しいことに挑戦する。

これからも、高幡不動尊は1年中楽しんで頂ける寺として運営してまいります。

閉式のことば 東京日野PC副会長 菊池昭雄

東京日野PC1周年記念式典に大勢のご来賓の方々に、ご出席頂き誠にありがとうございました。

また、祝電・メッセージを頂き感謝申し上げます。

本日のメイン・イベントであります川澄祐勝貫主様のお話に大変感動致しました。我々個人の人生の歩みの中の教訓として、一つ一つのことが心に残りました。大変ありがとうございました。

プロバスクラブ賛歌



安孫子様の三味線伴奏で歌う 菊池様と渋谷様

中締め

東京日野PC副幹事 佐藤郁夫

「日本ガンバレ！」
「東北ガンバレ！」



きで胃袋大満足！

首都高速4号線の事故渋滞のお陰でカラオケ大会。
森久保委員の迷司会で美声を披露し全員鐘三つ！
今回の企画で会員の交流・親睦が深められ、楽しい一日になりました。

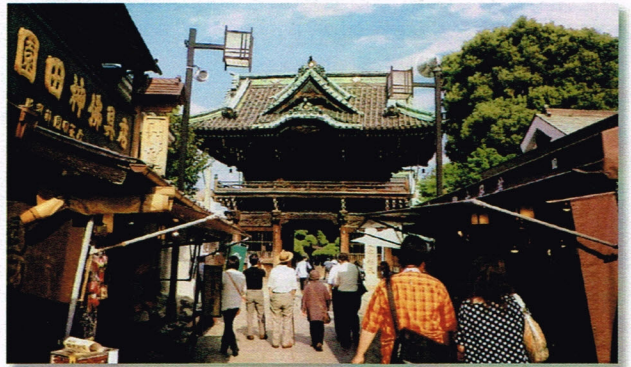


築地「すしざんまい」別館で朝食

研修委員会 活動報告

旅行部会 研修委員会 委員長 小島康義
第1回研修会(日帰りバスハイク)を、9月22日(木)25名の参加者で実施しました。

台風直撃の翌日、築地場外市場(すしざんまいの館)散策、羽田空港新国際線旅客ターミナルビル視察、柴又帝釈天(川千家のうなぎ)、車中からの東京スカイツリー見学、浅草寺・仲見世・雷門(三定の天ぶら)… 日帰り旅行では、考えられない3食付



柴又帝釈天



羽田国際エアターミナル「江戸舞台」の前で



思うこと
安孫子 秀子

出身地 山形県
昭19年1月11日生

御縁あって一年同席させていただきました。諸兄諸姉の方々の、豊かな経験に裏打ちされた、造詣深いスピーチを拝聴するにつけ、門外漢には、今更ながら未知の世界を学ばせていただける喜びを感じております。

プロバスクラブの趣旨「社会貢献」は、漠として壮大。貢献する側の負担にならず、それでいて誠意が実る…。難しいことです。

私事ですが、趣味の仲間達と市内の学校に邦楽の啓発に呼んでいただいたり、又、病院、各施設等に憩いのひとときを提供に行ったりと、ここ数年来、ささやかな活動を愉しみながら行っております。高令者にも生き生きと愉しく、充実感を味わいながら出来る活動はどの様な事柄か、皆さんの更なる御指導をお願い申し上げます。



1周年に寄せて
安西 清

出身地 東京都
昭19年2月5日生

およそ2年前、東京日野RCの45周年記念事業としてプロバスクラブの設立を計画したい。については飛火野RCも賛同できないかとの相談が後藤さんから受け、八王子プロバスの杉山さんをお迎えし、プロバスの意義、事業内容を初めて理解するなかで、わがRCも是非参画したいとの思いに至りました。幾たびかの準備会合やチャーターメンバーの選出、篠原先生への会長就任のお願いなど、思いのほか順調に推移したことは創立に向けての大きなエネルギーとなったと感じております。

発足後の理事会・例会でのメンバーの熱意は予想を上回り、メンバースピーチは例会の大きな楽しみです、出席率の高さはどれだけこの会に期待しているかの表れではないでしょうか。

参与として、会のこれからの更なる発展と会員の和と輪と笑いの広がりを期待しています。



私の職業
市川 資忠

出身地 東京都
昭4年10月18日生

私は1929年(昭和4年)に高幡の現在地に生まれました。

学校を出て農林省に入省したのですが、昭和25年頃から東京の復興は、めざましく工場が進出し、ビルが建ち始めました。父の弟が大阪で日東鑿泉工業所を営んで居りまして東京

に進出し、ビル、工場、飲料水源並びに三多摩の水道化に必要な鑿泉の事業を行いたいのを手伝うように依頼されました。

私の子供の頃は、長沼から平山、南平、高幡、三沢、百草方面は、川崎街道沿いの田圃の畦道に掘抜井戸が掘られ、きれいな水が休みなく湧いていてとてもどかな風景でした、その水を人も牛馬も飲んで生活していたので特に水には感心があり、転職を決意した訳です。

当時は浜松町で営業し、帝国ホテル、明治座、コマ劇場その他のビルや製糸、製紙会社等の鑿井工場を行い30年頃から三多摩方面も水道事業に取り組み始めた訳です。その頃から宅地造成開発工事が始まり、今迄こんこんと吹きでいた湧水が止ってしまいました。宅地開発で山の森林が切られ地下水が保たれなくなった結果です。時を同じくして東京では地盤沈下が起り、特に江東区深川方面は年に数厘の沈下が生じ地下水規制が行われました。都内での鑿泉工事は減少するので事業所を地元高幡に移し、昭和41年に指定水道工事店としてスタートしました。爾来、都営住宅、市営住宅、一般住宅の給排水工事と水道未施設地域近隣県の鑿井工事を主な事業として営んでおります。深井戸の掘削は、規制されましたが、各市町村、工場、ビルには既設の井戸が多数ありこれの維持管理の為の修繕工事はかなりあります。日野市にも水道用井戸が10数本あり、その井戸を交互に4、5本宛使っております。これは、大河内ダム利根川水源、江戸川の水源が渇水した時、その他緊急時に使用出来るように維持管理されている訳です。又、日野市水道指定工事店として組合組織をつくり、土日祭日夜間等の緊急漏水修理班を編成して緊急漏水事故の修理に対応しております。尚、水道資格は、国家資格となり国内全域で行われ下水道施行地域は、平成23年9月より東京都全域となりました。

唯、バブル崩壊後は、建設関係は民間需要が落ち込み、役所関係の工事も積算価格の引き下げで大変厳しい状況です。



プロバスクラブに望むこと
榎本 吉伸

出身地 東京都
昭7年1月24日生

私は定年後何か社会への恩返しと思って、多摩動物園のシルバーガイドというボランティア活動に入り約20年近くなる。この間動物園4園(上野・多摩・井之頭・野島)の会長職も経験し青島都知事の表彰も受けた。

然しこの間つらつら思うにボランティアに描いていた個人の意志と思ひが何故に社会に受け入れられないか?という事である。又社会貢献といふ事が、何故に地味で粘り強く行われねばならないかという事である。ボランティアに参加する者の意識と、それを見守り応援するバックとの乖離に受け入れる側との溝を強く感じた。

つまりボランティア活動のひとつひとつがいかに自分達の意識と周囲の理解と応援により成り立つものかといふ事である。当プロバスも単にロータリーの延長といふ意識ではなくより多角的に手を助け社会を巻き込む能動且つ積極的な姿勢が求められるものである。



初秋の一日
奥 修兵
出身地 東京都
昭16年1月18生

5時起床、5時半身支度を整え出発。中央道を使って6時45分富士山第3現場(仲間内での地点名)に到着。気温17°C、快晴、腰籠を着けて林道右手の森林へ分け入る。そこは白檜や米杵の針葉樹林で足元一面が苔の絨毯で被われた精霊の地。樹木の発する精气に心身を洗われながら、木漏れ日の中に目を凝らす。あった!シウゲンジだ。苔の中から虚無僧の編笠の様な頭をわずかにのぞかせている。そっと指を差し込み根本から掘出す。20本程シウゲンジを収穫して第2現場の唐松林へ移動。出来るだけ林の奥へ視界を広く取りながら歩く。鮮やかな橙赤色のタマゴタケが唐松の落葉の中からあちこちにその美しい存在感を主張しているのが目に入る。11時シウゲンジ21本、タマゴタケ27本、ナラタケ2株、キハツタケ、アカハツタケ少々を収穫して帰路につく。12時30分帰宅、流桶に薄い塩水を作り獲物を浸し一風呂あびて汗を流す。コップ一杯のビールを手元にゴボウ、ニンジンの笹がき、長ネギ、ナスの千切を作りアクを抜く。フライパンにオリーブオイル少々を熱し、細くさいたキノコと野菜を炒め、出し汁を加え酒、味醂、醤油、砂糖で味を仕上げ、荒熱を取り冷蔵庫へ。これで奥流キノコ入りごった野良ソバの掛汁の出来上りである。生ソバを茹で上げ氷水でめて掛汁をたっぷり掛、白ゴマをふる。冷酒が良く合う。心良い疲労感の内に熟睡出来そうだ。中秋の名月が近い。



私のクラブ活動この1年
菊池昭雄
出身地 岩手県
昭6年10月30日生

盛岡から日野に移り住んで6年になるが、昨年春、プロバスクラブの結成に誘われて入会し、多くの友人に恵まれ嬉しい限りである。この一年努めてきた副会長は、会長を補佐することが任務で具体的な役割を持たないが、新しいクラブの基礎作りに向けて私なりに励んできたつもりである。手始めに、愛好しているパソコンで役員の名刺を作り、役員以外の方々にも希望があれば応じている。またクラブの会員名簿を作り会員相互の情報交換の資料として役立っている。そしてクラブの運営を計画的に進めるための資料として上・下半期毎のスケジュール表を作成し、順次手を加え充実したものになっている。これは定期総会の事業報告や1周年の事業記録としても役立った。少々苦労した1周年記念の二つ折りの行事次第は、出来栄は良かったが、若干の不手際があったので残念な思いである。これらはクラブ奉仕への熱意そのものであり、八十路を迎えた私の生き甲斐でもある。



「プロバス」発展のために…
黒澤直明
出身地 東京都
昭24年3月30日生

東京日野プロバスクラブ結成1周年おめでとうございます。入会の切っ掛けは、日野ロータリークラブの小島馨様より60才以上のクラブができるよ、入会して見ない、と言う事でした。結成に当っては日野ロータリークラブの後藤一郎様、谷井正剛様、飛火野ロータリークラブの安西清様には、お骨折りいただいた事を思い出します。私も会員の1人として皆様方と奉仕活動に又クラブの発展のために積極的に活動していく所存です。さて最後に東日本震災で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。



無題
小島康義
出身地 北海道函館市
昭21年4月1日生

私は1945年12月17日北京で出生、その後北海道函館に引き揚げた時、栄養失調になっていた私を心配した両親が1946年4月1日で出生届を出し、1年遅くしたつもりが4月1日迄が早生まれで変更の甲斐がなかったようです。高校卒業までは自然溢れる函館で過ごし、大学で上京後からは東京で就職し現在に至っております。函館で生活している時は良さを感じることもなく過ごしておりましたが、四季がはっきりあり春は山菜狩り、秋は茸狩りと年を重ねる度に郷里が恋しく思われます。プロバスクラブ入会のきっかけは何人かの知人を含め妻に勧められ皆様とのお仲間になりました。まだ現職の為、ご迷惑をお掛けすることが多く、心苦しく感じております。自慢できる趣味はございませんが、釣り(磯・乗合船)ゴルフ、旅行食べ歩き(特に飲み歩き)も好きなのですが、我が家には愛犬が三匹いるので散歩のことがいつも脳裏から離れずまなりません。プロバスクラブ入会のお蔭で、未知の分野の職業や知識を知る機会を得られましたことに改めて感謝しております。





1周年に寄せて

小西弘純

出身地 東京都
昭15年7月13日生

一周年おめでとうございます。

東京日野プロバスクラブの1周年、とにかく羽ばたいて飛び立ちが始まった。

私は、2月に皆様の仲間に入れさせていただいたので、個人的にまだ羽ばたいていないのかもしれないのかもしれない。まだ数人の方しか顔と名前が一致していないのも、羽ばたいていない証なのかもしれない。

プロバスクラブは国際ロータリーで推奨はしているが、認証状のないクラブ独自の提唱クラブだから、縛り付けられるものもなく、自由にクラブ会員の発想でクラブを作り上げることが出来るので、これから3年、5年後の東京日野バスクラブの未来像が楽しみだ。

最初の1年目は、よほどタイミング良く創立総会をしなないと、どこのクラブの役員の皆様も約2年間の役職に当たることになり、大変なことでしょうが、感謝申し上げたいと思う。1周年記念式典も関係の皆様をご招待して無事終了、又2年目に向かって羽ばたきが始まった。1周年おめでとうございます。



「プロバス」に救われたこと

後藤一郎

出身地 東京都
昭10年12月18日生

プロバスの会員に救われた話をします。

10年前から腰痛に悩んでいました。某大学病院医師は、腰椎狭窄症で治療方法はない、将来歩行困難になるとの診断。そして3年前から200m歩くと足が前になくなった、その場で屈伸運動するとまた200m歩けるといった状況になってしまった。

ただ、ありがたいことにゴルフは可能で、芝の上は気持ちよく歩ける。歩けることがうれしくて可能な限りゴルフに勤しむ。家内は不思議な病気だ、と皮肉を言う。

そんなとき、当時八王子プロバスの渋谷文雄さんから、日野市立病院の依光先生の話をついた。さっそく受診、明快な説明で手術の不安が氷解し、去年3月に手術、いまでは歩くことが楽しくてならない。人生の末期の明暗を考えると幸運をもたらしてくれた人とひとのつながりにただただ感謝、感謝です。プロバスありがとう。



創立一周年を迎えて

後藤紀之

出身地 熊本県
昭21年5月12日生

約一年前、日野ロータリークラブの熊井さんより「今度プロバスクラブという会が発足するので参加しないか？」とのお誘いがあり、最初はどのようなクラブなのかも余り良く理解せずに立川より参加致しました。

それまでほとんど日野とは接点がありませんでしたが、これを機会に月一度の例会、その他の催し等に参加する事により徐々に皆様方との繋がりが出来て参りました。

会員の方々は人生経験も豊富で色々と教えられる事も多く又、世間で65歳というと老人扱われますが会の中では一番の若輩者ですし、それだけでも何か気分的に若返った気が致します。

今迄この様なクラブへの参加はほとんど無く、皆様にご迷惑をお掛けする事も多いかと思いますが、皆様方にご指導頂き、会の発展に少しでも寄与できたらと思っております。



入会の動機

佐藤郁夫

出身地 東京都
昭17年7月31日生

私は当初三越デパートに勤務していた。夏の中元期年末の才暮の繁忙期は、食料品に属していた為、それこそ戦場のごとき様は、今ではなつかしい思い出として残っています。

一念発起で「税理士」をめざし中途退職し、国家試験に挑戦し、37才で独立し事務所を持った。小生を応援して呉れた顧客の一人40数年来のお付き合いを頂いた会長より「今度日野市でプロバスクラブを立ち上げる。ついては、あなたもいい跡つぎが出来たことだし、会に入って月1回の会合や、仲間づくりに協力してくれないか？」とのお誘いを受けたのが、私の入会のきっかけである。

40才を過ぎた頃、縁あって地域の民生委員に推された。何も分からないまま引受けて今年で28年目となり、本職を持ちながらの活動は、決して熱心とは云えないと思いつつ、近所のお役に立ちたいと思っているこのごろです。





すばらしいメンバーに
恵まれて!

澤田研二

出身地 東京都
昭19年9月3日生

え!ふろばす!それ何ですか、そんな出会いで初まった「プロバス」との係わりでした。

2人の長〜く係わりを持つ知人から、プロバスの設立準備に参加してもらえないかのお話が別々にありました。その時の最初の会話が「それ何」でした。内容を伺いクラブとこの立派な方向性や活動の主旨も理解できました。しかし2つの理由から私には無理とお断りました。1つは、PROと言える程の実績も資格もない事。2つは、現在も多忙を極めておりこれ以上はとでも無理でした。しかし推薦者との関係もあり、名前を連ねるだけならと、参加する事としました。

しかし、いざ設立の時最も忙しい役割と言われるクラブ幹事の指名でした。何も解らぬまま、設立からあつという間の1年間。会員皆様のご協力でなんとか頑張ってきましたが、この1年で特に感じた事は、会員皆様のすばらしさで、まさに「プロバス」な人達だな、と感心しています。



自らの生き甲斐のひとつに

篠原昭雄

出身地 山梨県
昭6年3月7日生

それぞれ実のある社会を生きてきたメンバーとともにプロバスの活動を始めて1年が経つ。

人は現役を去ると、豊かな経験をもちながらとかく己の殻に閉じ籠りがちになる。

誰もが生きる証を持ちたいと思う。生き甲斐はその証である。それは幾つもの要素が絡み合っただけではないが、社会(人の集団・家庭など)で持つ役割と物事への楽しみを重く視たい。いずれも自己実現に結びつくからである。プロバスの活動はそれらと深く係っている。

機会は限られているが、会を重ねる毎に充実感(満足感)があり、親睦も深まり、何よりも楽しみを覚える。プロバスをこれからの自分の生き甲斐のひとつとしたいと思っている。



育ち、職種、付合いを
超えた仲間づくりを

瀬川爾朗

出身地 岩手県
昭11年6月19日生

昨年(2010)ははじめから、昔のロータリークラブの仲間から、プロバスという超ロータリークラブに入らないかという勧誘があった。老人というのは暇にしようと思えば暇で、忙しくしようと思えば忙しくできる、まさに超人生の達人であるから、

一瞬にして我が過去現在未来を掃引して、「諾」の返事を送った。何と云っても、豊かな人生経験を持った会員の、貴重な人生を知り、時には人生の結論までも伺うことが出来るという、素晴らしい会が期待できる。ここで10人の方の体験を聞くことにより、100歳×10人=1000歳まで生きたことになるではありませんか!高砂、養老、羽衣、船弁慶、鞍馬天狗等の東洋の人生ドラマを演じる能楽を趣味とする私は、今後も人の喜び、悲しみ、意欲を重んじたいと思う。



老いて生きる

渋谷文雄

出身地 長野県
昭4年11月5日生

貝原益軒は「養生訓」の冒頭で言う。「人生五十にいたらざれば血気いまだ定まらず、智恵いまだ開けず。古今に疎くして世変になれず。言誤り多く、後悔多し。人生の理も楽しみも未だ知らず。五十に至らずして死するを夭といふ。是亦、不幸短命と言うべし。長生きは楽多く益多し」と。当時は人生五十年と言われた時代である。今の五十は七十ぐらいに当たるかも知れない。益軒は更に「老後は、若き時より日月の早き事、十倍なれば、一日を十日とし、十日を百日とし、一月を一年とし、喜樂して、あだに日を暮らすべからず、常に時日を惜しむべし。心しずかに、従容として余日を楽しみ、怒りなく、欲少なくて、残軀を養うべし、老後一日も楽しまずして、空しく過ごすは惜しむべし。老後の一日、千金にあたるべし」。齢八十を過ぎれば他人の文章の引用でお茶を濁す知恵も枝もつく。



「プロバス」を通じて発信を!

田村豊章

出身地 東京都
昭22年9月6日生

私は今から36年前に日野市へ参りました。最初は、なかなか地域にとけこむ事が出来ませんでした。それから年月が過ぎ、初めて地域活動に参加する事が出来たのが東京日野ロータリークラブでした。残念ながら退会してしまいましたが、その間、様々な人々と出会い、様々な活動をして、初めて日野で生きて来た事を実感しました。それから公共に様々な経験、失敗、成功をして来ましたが、自分の経験を生かし、もう一度、この日野で活動をしたと思った矢先に声を掛けて、いただいたのが東京日野プロバスクラブでした。諸先輩方から比べれば、まだまだ若手かもしれませんが、自分の日野に来た時の初心を踏まえ、一人でも多く、次世代を担う若人にこのプロバスクラブを通し微弱ながらも最大限なメッセージを発信して行きたいと思っています。

また、プロバスクラブでの様々な交流を生かし、日野市の活性化にも貢献したいと思っています。



波瀾万丈の人生 泊谷時男

出身地 神奈川県
昭和17年3月17日生

(入会の動機)12年前まで、日野ロータリークラブの会員でしたが、八王子の大洋軒を閉店すると同時に退会致しました。退会の挨拶の時、また奮起して必ず日野ロータリークラブに戻ると、約束したのですが、実現出来ませんでした。日野プロバンスクラブが創立するので、会員にどうかとの入会の誘いを頂きました。月一回の例会なら、微力ながら、協力出来るのでわと入会致しました。

(我が思い)23年8月の例会でメンバースピーチとして「終戦記念日に想う私の波瀾万丈の人生」と題して恥ずかしながら、私の生き様を、会員の皆様にビデオを観ていただき、其して話を聞いてもらいました。

後日、数人の会員から、とても素晴らしい、スピーチだったよとの、激励のお言葉に大変感動致しました。どうも有り難うございました。

(私の趣味)仕事が第一趣味と云ったら…?
ボケ防止の為に麻雀を多少楽しんでおります。



入会から一年を迎えて 中村代志子

出身地 富山県
昭和17年8月12日生

心豊かな、人生を送るために!

東京日野プロバンスクラブに入会しませんか、資格年齢60歳以上ですとお誘いを受け考える余裕もなく軽い気持ちで入会し、あれ、これ思う内にあっという間に一年を迎えました。会を重ねる度に、私のような、取り得のない者がメンバーとして相応しくないと、不安と心苦しさ感じながら今日に至っておりますが会員一人一人の皆さんの経験豊かな気が溢れる素晴らしい方々と一緒に私なりに新しい発見が出来るように、微力ですが、一歩一歩前進できればと願っております。



私の履歴書 新田 進

出身地 東京都
昭和20年10月23日生

私、新田進は1945年10月23日生まれ、出身地は信濃国松本市馬喰町です。3255グラムで生まれ、すくすくと育ちました。2歳の時、父義三が戦病死。12歳の時、母千代枝が胃癌で他界。その後姉、兄に育てられ素直な少年に成長しました。18歳の時、信州松本から東京四谷三丁目、丸正食品鮮魚部へ就職。23歳で結婚。(可愛い?)妻芳子と中野区都立家政で鮮魚店を開店。29歳の時、長男忍が小児

喘息になり空気の良い土地日野市南平に転居し、新たに鮮魚店を開店。43歳の時、台湾へ鮮魚技術指導に1年間滞在。45歳の時、Aコープ高幡店に鮮魚店を出店。55歳の時、酒の肴や梅之木開店。現在に至る。

趣味スポーツ馬鹿

自転車

富士ヒルクライム(富士山五合目までの登坂レース)

タイム:1時間55分15秒

マラソン

1998年青梅マラソン(30Km)

タイム:2時間29分27秒

2007年第一回東京マラソン(フルマラソン)

タイム:4時間55分34秒

スキューバダイビング

八丈島、神津島等々

海カヤック(カヌー)パラグライダー

ボランティア活動

少年サッカークラブ事務局代表 22年

七生中学育成会日の出マラソン 35年

日野市消防団団員 25年

日野市体育指導員 15年

南平公園清掃奉仕 10年

七生中学 日本の伝統文化体験 講師 4回



「生涯現役」は、
こんなに面白い!

林 良健

出身地 山口県
昭和16年4月19日生

最近、各地域で活躍されているシルバーらしき方々の仕事ぶりを拝見して、ハッとさせられました。

「仕事そのものには、上下貴賤の別があるのではない。職業には尊卑はない。自ら軽んずる心を持つ働きを人が賤しと思ひ、自ら重んずる職業を人が尊ぶのである。」という言葉の思い出しました。

仕事に取り組む姿勢として、

- どのような仕事にたいしても誇りを持つ。
- 地域に役立ち、喜ばれる仕事として、使命感を持つ。
- 喜びを持って働く。

というようなことが大切だと気がきました。

このような思いで仕事をしていると、職種に関係なく、地域の方々から「ありがとうございます!」と声を掛けられることが多くなるのではないのでしょうか?

仕事ぶりを見た方が「将来、年を取っても、あの方のように仕事をしてみたい!」と思って頂けるよう実践したいと思います。

私は人生後半を、充実した時間にするために『仕事』『ボランティア』『趣味』の3本柱で生涯現役でボケル前日まで活動する予定です。



“残された人生を楽しく”

足田久武

出身地 群馬県
昭和18年10月21日生

私は、今年5月に入会させて頂きました。
まだ、例会に2回しか出席しておりません。
メンバーの方々と早く親しくなって、毎月の例会を楽しみに出席できるようになりたいと思います。
今のところ現役ですので、セカンドライフとは言えないかもしれませんが、残された人生を精一杯楽しく過ごしたいと思っております。
プロバスクラブが私にとって有意義な会になりますよう、期待して頑張る所存です。



プロバスクラブ入会に思う

土方尚功

出身地 東京都
昭和20年2月15日生

入会にあたっては、谷井氏による強力な働きかけによるもので、過去においては、ライオンズクラブやロータリークラブからの呼び掛けもありましたが、全て断っていました。
しかし、これからの人生を送るうえでも参加すべきかなと思入会いたしました。
プロバスはそれぞれ経験豊富なメンバーの集合体であり、会長以下各役員の方にも感心するとともに、メンバースピーチでの各人の経験・経歴・実績などを何う度に、その奥深さに頭の下がる思いです。そのような中に「人生アラカルト」と銘打ちスピーチしたことを、深く反省するとともに、これを糧に一層の努力を重ねていかなければと思っております。プロバスの活動に大いに期待し、協力して行きます。



私の今日この頃

松澤紀美子

出身地 熊本県
昭和16年1月19日生

私には三人の娘がいます。今私は三女と暮らしています。次女は今年初めに結婚し、11月には出産予定です。長女には高校一年生と中学一年生の双子の男の子がいます。最近では三人の孫も部活や勉強等忙しく、なかなか会えませんのでちょっと寂しいです。

四年前右脳管梗塞になり35年間続けていた「茶の湯」のけいこをやめる事になりましたが一年半前から老人会の「お茶を楽しむ会」で少しずつお手前を思い出しながら楽しんでます。又還暦を期に何かに挑戦をしたいと思一番苦手な絵画を始めましたが今だに思う様には描けませんが、苦しみながら楽しんでます。又、友達とランチやおしゃべりを楽しんだり、早朝ウォーキングを楽しんだりで残された人生自分らしくのんびりと楽しみたいと思います。

今後、美術館めぐりをしたり、クラシック鑑賞に出かけたいと思っております。



余生(余命)?の報恩

森久保憲治

出身地 東京都
昭和4年7月20日生

本会に創立より参加させて頂き有り難く思っております。せめて足手まとい、ご迷惑に為らぬ様にと心掛けております。

お仲間内では最高年齢者と自負しております。昭和4年(1929)7月生まれ八十路の道を喘ぎながら歩いております。

孔子は『十五で志学・三十で而立・四十で不惑・五十で知命・六十で耳順・七十で従心矩(のり)を踰(こ)えず』と論している。

『八十』は何とするのだ?孔子は七十二歳で死んだからと小生は思考します。

論語よりはみ出る程、生きてが自覚無しだ只ひたすらに諸事諸々感謝・お陰さまと合唱するのみです。あえて一つだけ云えば『旅』好きでこの歳でよく出歩いております。

すでに四国の百八霊場・日本百観音霊場・関東三十六不動尊・多摩八十八ヶ寺巡礼拝や世界六十ヶ国・日本百名山等々踏破しました。よって旅のアドバイスをお手伝いいたします。



「セカンドステージを生きる」

山本英次

出身地 東京都
昭16年11月26日生

3年前に最愛の妻をガンで看取ってからは、私の「セカンドステージ」が開演されました。

ファーストステージでは、常に主役の妻がいて、脇役の私との二人芝居が何時も楽しく演じられておりました。

「セカンドステージ」となってからは、何時も独り芝居を演じなければなりません。

共演の申し出を頂きました時には、決してお断わりすることなく、連日休演することなく、朝・昼・晩の3回連続公演も辞さないつもりでした。

その共演者の一人に小島 香さんがいらっしゃいました。

幸い近くにお住いの為に、ゴルフに誘われたり、自治会でご一緒したり、散歩の途中でご挨拶をしたり親しくさせてくださいました。

独り芝居の寂しさを感じて下さったのでしょうか、日野ロータリークラブへのお誘いを頂きましたが、この共演だけは、才能と財力の不足の為に辞退せざるを得ませんでした。

その事態が、今回の「日野プロバスクラブ」への入会へと繋がったのですから、「セカンドステージ」も捨てたものではありませんね。



プロバス初年度

矢野凱弓

出身地 東京都
昭18年1月生

北区王子から日野に移り住んで43年。勤め先が丸の内に在り、右肩上がり経済で日夜忙しい間はいわゆる会社人間。地元での活動は限られていた。14年前から市内の障害者授産事業に係わることになり、このご縁で新たなサークルにいくつか入れて頂いた。昨年始まったプロバスは中でも出色のクラブ活動だ。ロータリーがベースになっているだけに会の運営が諸事きちんとしていて気持ちが良い。メンバーの人生経験が多様に豊富で毎回の卓話はまさに絶品。出席率の高さも尋常ではない。例会場が義兄の菩提寺である高幡不動尊内というのも新鮮。昨10月の創立式典以来私も皆勤している。期待のゴルフ部会も始まり、8月の第1回コンペでは思いがけぬ好成績も出た。現地での懇親会に加え地元に戻っての二次会は経つ時を忘れる楽しさ。良いメンバーに恵まれ、願ってもない2年目のスタートとなっている。日野プロバスクラブの前途に乾杯!



「流れに乗って入会しました」

鷺尾昭夫

出身地 三重県
昭10年6月5日生

会社人間であったときは、用事のない休日は十時近くまで寝ていることが多かったのも、こんなことではダメだと家内が参加していたラジオ体操をすることとしました。朝6時に起床しストレッチをしてから体操をします。寝覚めもよく、気持ち良いものです。体操仲間の山本英次さんから町内有志のゴルフに誘われ、プレー後の懇親会で今度は小島馨さんから署名を求められ、何気なくサインをした結果、プロバスクラブの設立に関与することになった次第です。

会社勤めの時は始発に座るべく早めに家を出、帰りは子供達が寝静まった頃でした。全く地縁に疎かったのも、仲間を求めて三多摩第九合唱団、日野市民合唱団に入り、自治会活動によりご近所の方々との面識も深めました。東京日野プロバスクラブの方々との人縁も深め、更に発展させたいと思っています。



『1周年を迎えて』

渡辺 明

出身地 東京都
昭18年11月3日生

会社(自動車関係)を退職するまでは、地域の事は家内に任せきりだったので、これからは地域の人と関わりを持ちたいと思い自治会役員等に首を突っ込み、その後は民生・児童委員をやっております。また、趣味では下手なゴルフ(スコアは年々悪化)と手打ちそばを仲間と楽しんでおりましたが、知人よりプロバスへのお誘いがあり、会の説明に賛同し入会させて頂きました。

入会後皆さまの経歴を知るにつけ、場違いな会に入会してしまったと思っている内に1年が経ってしまいました。

プロバスクラブも1周年を迎えましたが、まだまだ助走段階であり、今後は更に会員相互の親睦を図ると共に多くの仲間を増やし、地域や社会に貢献できる、楽しい会に出来ればと思っています。

1周年おめでとうございます。

編集後記

皆様のご協力で創立一周年記念特集(第11号)を発行できました。これを期に、新たにスタートしたいと思います。

東京日野プロバスクラブ

http://blogs.yahoo.co.jp/pc_hino

編集・発行：情報委員会 創立平成22年9月16日